

食支援 の 実際

柴本 勇先生

(聖隷クリストファー大学 教授)

摂食嚥下障害の方々に対する支援は、全国で行われています。リハビリテーション方法の開発、嚥下調整食の開発や分類、食事介助方法、補助具の選択方法の支援、リスクマネジメントまで様々なことが発展し、摂食嚥下障害の方々を取り巻く社会は随分と変わりました。しかし、実際に支援する側からすれば、いまだに手探りの時があります。それは、食支援は個別性が高い行為であるからです。また、体調や姿勢等わずかな違いで状況が変わります。その中で臨機応変な対応と安全な結果が求められます。本セミナーでは、臨機応変かつ安全に食支援ができるよう、基礎知識・専門知識・臨床技能をわかりやすく解説します。大変好評いただいているセミナーシリーズをアップデートし、最新版を5回シリーズでお届けします。

JSDR 認定士
単位セミナー
各講座
10 単位

第 1 回 8/19(金)

摂食嚥下障害の
特徴を知る

食べるメカニズムを知ることは重要です。その上で、支援する摂食嚥下障害の方の障害の特徴を理解することが、効果的な支援に直結します。実際の例を紹介しながら、摂食嚥下障害の特徴を解説します。

第 2 回 8/26(金)

アセスメント結果と
支援方法の選択

食べることへの支援は、科学的根拠に基づいて障害を理解し、適切な支援方法を選択して行います。アセスメントの方法や結果、支援方法の選択やプログラムの立案について、実際の例を紹介しながら解説します。

第 3 回 9/2(金)

リハビリテーション
手技

摂食嚥下リハビリテーションはここ 30 年で急速に発展してきました。毎年新たな手技が開発されています。それらの手技の目的、適応、方法を学びます。最新で正確な手技が目標の達成に繋がります。個々の手技を専門的な視点で解説します。

第 4 回 9/9(金)

食事介助の実際
(リスクマネジメントも含む)

食事介助は「実際に食べながら機能を高める」ことや「環境設定をした上で安全な経口摂取を確保する」目的があり、大変重要です。安全に、効率よく、確実に摂食する食事介助法を紹介します。摂食嚥下障害の方の可能性を上げる手技を学びます。

第 5 回 9/16(金)

摂食時の姿勢調整と
食品選択

食べる環境の調整はご本人の最高のパフォーマンスを引き出します。姿勢調整は重要な環境調整であり、科学的な視点が不可欠です。そのために必要な基礎知識や具体的方法、注意点のほか、姿勢と選択する食品（物性）の関係を解説します。

19:00~20:15 オンライン

●参加費

1 講座につき 当研究所会員 1,000 円
非会員 3,000 円

●申込方法

下記の QR コードからお申込みください。



●詳しくはホームページをご覧ください。

<https://fc-science.or.jp/guide7.html>

